

平成27年度 継続被災地支援活動「福島県への継続文化支援活動」報告

【福島応援人形劇公演 Part5】

- 1) 日程 平成28年3月8日(火)～3月14日(月)
- 2) 場所 福島市2会場、二本松市1会場、郡山市1会場、伊達郡1会場の計5ヶ所で公演を実施。
- 3) 参加劇団 さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座(11名)、八王子車人形西川古柳座(1名)、義太夫三味線(2名)、照明(1名)
- 4) 公演記録

月/日(曜)	開演時間	会場	公演プログラム	観客数
3/9(水)	16:00	二本松市地域文化伝承館 二本松市鈴石町361-1	「二人三番叟」(あしり座) 「東海道中膝栗毛 卵塔場の段」 (西川古柳座) 「伊達娘恋緋鹿子 火の見櫓の段」 (あしり座) 「祝い唄」(あしり座)	90名
3/10(木)	10:30	富岡町おだがいさま センター 郡山市富田町字若宮前32	「二人三番叟」(あしり座) 「東海道中膝栗毛 卵塔場の段」 (西川古柳座) 「伊達娘恋緋鹿子 火の見櫓の段」 (西川古柳座)	28名
3/11(金)	10:30	松川第一仮設集会所 (飯舘村避難所) 福島市松川町金沢字地藏 田1-1 松川工業団地第一 仮設住宅	「二人三番叟」(あしり座) 「日高川入相花王 渡し場の段」 (西川古柳座&あしり座) 「祝い唄」(あしり座)	28名
	14:15	松川サポートセンター あづまっぺ 所在地は同上	「二人三番叟」(あしり座) ※公演後三人遣いワークショップを 実施	20名
3/12(土)	14:00	川俣中央公民館 伊達郡川俣町字樋ノ口11 番地	「二人三番叟」(あしり座) 地唄「ゆき」(西川古柳座) 「東海道中膝栗毛 赤坂並木より卵 塔場の段」(あしり座) 「川俣音頭」(川俣町ワークショップ参加者)	140名 (うちワーク ショップ参加 者8名)
3/13(日)	13:30	福島市子どもの夢を育む 施設こむこむ 福島市早稲町1番1号	「二人三番叟」(あしり座) 「二人三番叟」「立ち回り」 「さくらさくら」 (こむこむワークショップ参加者) 「東海道中膝栗毛 赤坂並木より卵 塔場の段」(あしり座) 「祝い唄」(あしり座)	144名 (うちワーク ショップ参加 者15名)

5) 写真で見る公演及び調査記録

①二本松市地域伝承館



- 開場前にすでに多くのお客様に並んでいただき、整理券はすぐに完売するほどの盛況ぶりだった。
- 最後の演目「祝い唄」のなかで、二本松市のご当地キャラクター菊松くんが登場すると、場内は大いに盛り上がった。
- 終演後は人形とふれあったり、一緒に写真を撮るなどして笑顔で会場を後にする来場者の様子が見られた。

②富岡町おだがいさまセンター





- ▶当日は仮設住宅や近郊の復興公営住宅にお住まいの方々が自由に集まる喫茶コーナーの一角で公演を行った。来場者はゆったりお茶を飲みながら、間近で見る人形浄瑠璃に見入っている様子だった。
- ▶終演後は来場者に三人遣いを体験していただいた。「結構重いんだね」と言いながら人形を操作する来場者たちは、初めて触れる人形に興味津々の様子だった。
- ▶最後に全員で記念写真を撮らせていただいた。

③松川第一仮設集会所、松川サポートセンターあづまっぺ





▶小さな会場ではあったが、多くの方に来ていただき、人形が客席に入って鈴を振ると、来場者は手を振って喜んでくれた。

▶午後は集会所に隣接するサポートセンターあづまっぺにてワークショップを実施した。会場のあづまっぺでデイサービスを受けている方々や近郊の仮設住宅にお住いの方が参加し、あしり座による「二人三番叟」を観劇したほか、近くで三人遣いの人形を見て体験してもらった。当時地震が発生した14:46には来場者と一緒に黙祷を行った。ワークショップが終わると、涙を流して「ありがとう」と言って見送って下さる方もおり、こちらも胸が熱くなった。

④ 川俣町中央公民館



- ▶ 昨年も川俣町中央公民館で公演をさせていただいたが、今回はこれまでワークショップに参加してきた川俣町の方々にステージに立ってもらい、人形の基本操作である型を実演した。また、公演の最後に生演奏に合わせて人形が「川俣音頭」を踊りながら会場内を練り歩くと、観客は節を口ずさんだり手拍子を取りながら楽しんでおり、会場が一つになっているように感じた。
- ▶ 終演後、ワークショップ参加者は人形で手を振ったり、おじぎをして、来場者を見送った。

⑤ 福島市こどもの夢を育む施設こむこむ



- ▶ 今回の会場ではこれまでワークショップに参加していた福島市の子どもたちによる発表をおこなった。子どもたちの元気よさに、こちらが力をもらえるようだった。観客も、子どもたちが一生懸命演じる姿をみて元気ももらうとともに、伝統人形芝居をより身近なものに感じていただけたのではないかなと思う。

今回訪れた様々な会場で現地の方の話を聞くことができた。飯舘村の仮設集会所では「家がなくなってしまった。なぜこんなに遠いところで生活しなくてはならないのか。」と、悔しさをにじませる言葉に胸を打たれ、川俣町では、現地の方の体験談から、今なお続く放射線汚染の目に見えない恐ろしさを実感した。今回の遠征でも、復興にはまだまだほど遠い現実を目の当たりにしたが、その一方で「震災から5年がたち、ようやくここからスタートです」という前向きなお話も聞くことができた。また、今回は川俣町と福島市でワークショップ参加者の発表会を行ったが、人形浄瑠璃に夢中で取り組む姿に、こちらが元気をもらい、改めて文化活動を通じた人との交流の大切さを実感した。今後も今回のようなワークショップを通して地元の方との交流をすることで少しずつでも現地に伝統文化が根付き、福島で文化活動を通じた心の復興がさらに深まることを願ってやまない。これからも復興に向けて日々戦う人々の心の安らぎになる瞬間を、伝統人形芝居を通して与えられるよう、現地の方々と協力しながら活動を継続していきたい。